

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ
黒田禎一郎

2020年8月2日（日）

主 題：「シオンに選ばれた石」

－生ける石－

テキスト：1 ペテロの手紙2章4～6節

はじめに

- ・聖書には、いろいろな「たとえ」が書かれています。
聖書の「たとえ」は、神のみことばを分り易く説き明かすためです。
「たとえ」は原語で“parabole”（パラボレ）と言いますが、それは「相並んで、並行して」という意味であります。（日本語でも今では、相並んで、並行していることは、パラレルと言いますね。）
- ・ドイツには、パラレル・アウトバーンという高速道路があります。ドイツの中央を南から北に向かいライン川が流れていますが、そのライン側の両側にはアウトバーン（高速道路）が、並行して走っています。それがパラレル・アウトバーンと呼ばれる高速道路です。
- ・これはとても便利です。と言いますのは、片側のアウトバーンで工事が行われたり、事故が発生したら（高速では大事故となる）、反対側のアウトバーンを利用し走行できるからです。そして目的地に向かうことができます。
- ・聖書の「たとえ」も、誰にもわかる自然界に存在するものを片側に置き、反対側に神の真理を置き、その二つは相並行すること、等しいことであると教えています。
- ・例えば今日のテキストですが、
2:4 主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが神には選ばれた、尊い生ける石です。
ここで主は「石」とであると述べられています。
- ・**2:5 あなたがた自身も生ける石として霊の家に築き上げられ、神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。**
ここで、あなたがた自身も「生ける石」とであると述べられています。
- ・つまり、この「たとえ」は、主（神）が尊い「生ける石」であるように、あなたがたも生ける「生ける石」とであると教えています。これは神様の幸いな奥義（秘密）を教えてくれています。
- ・それでは、今日はこの相並ぶ「石」について神様の奥義を学びましょう。

大切なポイント

1. イエス・キリストは尊い「要の石」である

- ・ 2:4 主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが神には選ばれた、尊い生ける石です。
- 2:6 聖書にこう書いてあるからです。「見よ、わたしはシオンに、選ばれた石、尊い要石を据える。この方に信頼する者は決して失望させられることがない。」
- ・ 私はドイツのトリア大学留学中、モーゼル川添いにある石作りの家に下宿していました。石作りの家は内部の温度は常に一定でした。夏は涼しく、冬は温かく感じたことを覚えています。
- ・ エルサレム（シオン）は、堅い岩盤の上にある町であると聞いたことがあります。ですから今でも石造りの家は多くあります。最近ではエルサレム・ストーンと言って、海外にまで輸出をしています。ですから、エルサレムの人々にとって、石は身近にあるもので分かりやすいものです。（石文化）

1) イエスは要石

- ・ イエス様は今日の箇所、「要石」（6節）と呼ばれています。また他の聖書箇所では、「隅のかしら石」、「礎の石」とも呼ばれ、建物全体の要となるしっかりとした石のことです。この石の存在によって、他の石が生かされ、見事な建物になっていくのです。
- ・ マタイ福音書 21 章には次のように述べられています。
21:42 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、聖書に次のようにあるのを読んだことがないのですか。『家を建てる者たちが捨てた石、それが要の石となった。これは主がなさったこと。私たちの目には不思議なことだ。』」
- ・ イエス様は人々から見捨てられ、十字架で殺されました。まさに「主は、人には捨てられたが神には選ばれた、尊い生ける石です。」（1ペテロ 2:4）です。

2) 不思議なイエス

- ・ 皆さん。少し考えてみてください。
① なぜ、人々を救い、助けた善人イエス様は無残にも殺されたのでしょうか。
② なぜ、神の子と宣言されたイエス様が殺されたのでしょうか。神の子ならば、十字架から降りることもできたでしょう。
- ・ ここで使われている「捨てる」という語は、色々と吟味して、これは役に立たないと判断して捨てるとう意味です。今ある人類の不幸と悲しみの原因は、イエス・キリスト様を捨てたことに起因しています。命の源であるイエス様を

離れて、自分たちでやっていけると判断したところに誤ちがありました。人類はその本来の姿から離れ、戻れなくなりました。要石を捨ててしまった結果、家を築くことができなくなりました。人々はイエス様を捨ててしまったからです。これが人類が犯した大失敗です。

3) 不思議な「生ける石」

- ところでイエス様は、「生ける石」とも呼ばれています。石は生物ではありません。しかし生きています。確かで要石となる固い石であります。生きています。すなわち、「生ける石は」いのちを与え、私たちを生かして下さる方です。
- それは霊的に死んでいた者が、このお方によって生きる者となりました。イザヤは次のように述べました、イザヤ書28章

28:16 それゆえ、【神】である主はこう言われる。「見よ、わたしはシオンに一つの石を礎として据える。これは試みを経た石、堅く据えられた礎の、尊い要石。これに信頼する者は慌てふためくことがない。

- この聖句はイエス様の誕生前に語られた預言です。世界で使われている西暦紀元2020年という年号は、イエス・キリストの誕生からです。シオンに置かれた「要石」の存在を示しています。ペテロはさらに幸いなことを述べました。

2. キリスト者も「生ける石」である

2:5 あなたがた自身も生ける石として霊の家に築き上げられ、神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。

1) 「生ける石」として霊の家に築き上げられる

- ペテロは私たち自身も、「生ける石」とであると教えています。1つの石では見栄えもしなく、役に立つとは見えない石かもしれません。しかし多くの「生ける石」が一緒になって、「霊の家に築き上げられ」るのです。私たちが築き上げるのではなく、主である神が私たちを用いて築き上げてくださいます。
- 「霊の家」とは「神の宮」のことです。神様の臨在が現われる所です。私たちの交わり、クリスチャンの集団、教会が「神の宮」、神の臨在が現れるところとなります。目に見えない神様が、私たちの交わりのうちにご自身を現わしてくださいます。
- つまり、神様は信じる聖徒を用いて、教会を築き上げてくださるのです。ここは大切なポイントです。著者ペテロは、もう一点大切なことを述べまし

た。

2) 祭司となったキリスト者

- ・「**霊の家に築き上げられ**」には、目的があります。それは**霊の家**を建てるのに必要な祭司となることです。祭司となる、それが目的です。
- ・私たちは「**霊の家**」を築くために、そこで仕える「祭司」となるとも言われています。「**霊の家**」である教会は、祭司の集団でもあります。祭司は神の大きな祝福に与る立場です。神の宮で、神の恵みにもっとも近く恵みに与る立場です。
- ・皆さんもご存知のように、ユダヤ教ではアロンの家系の者だけが祭司になることができました。願って祭司になれるものではありません。選ばれた人です。
- ・しかし教会においては、神を信じるすべての聖徒が「**聖なる祭司**」となります。一部の特権階級ではありません。すべてのキリスト者が「祭司」として仕えることができます。約500年前の宗教改革において、ルターは「万人祭司」と宣言しました。まさに、ここで言われている真理を回復したのです。

① では、祭司はどんな仕事をするのでしょうか。

- ・祭司はイエス・キリストを通して、「**神に喜ばれる霊のいけにえ**」をお献げします。

(1) ミカ書6章

- ・旧約時代の預言者ミカは、祭司について次のように述べました。
6:6 何をもって、私は【主】の前に進み行き、いと高き神の前にひれ伏そうか。全焼のささげ物、一歳の子牛をもって御前に進み行くべきだろうか。
6:7 【主】は幾千の雄羊、幾万の油を喜ばれるだろうか。私の背きのために、私の長子を、私のたましいの罪のために、胎の実を献げるべきだろうか。
6:8 主はあなたに告げられた。人よ、何が良いことなのか、【主】があなたに何を求めておられるのかを。それは、ただ公正を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩むことではないか。

(2) ヘブル人への手紙13章

- ・新約聖書のヘブル人への手紙の著者は、祭司について次のように述べました。
13:15 それなら、私たちはイエスを通して、賛美のいけにえ、御名をたたえる唇の果実を、絶えず神にささげようではありませんか。
13:16 善を行うことと、分かち合うことを忘れてはいけません。そのような

いけにえを、神は喜ばれるのです。

(3) ローマ人への手紙 12章

- ・新約聖書のローマ人への手紙の著者は、祭司について次のように述べました。
12:1 ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。

* これらが祭司の務めであります。

② 祭司に求められていること

- ・キリスト者が「生ける石」として、「霊のいけにえ」をささげ、「神の宮」を建てるとは、どういうことでしょうか。それは祭司自身を献げることです。祭司として献げるのは、「からだ」です。それは身体、肉体ということではありません。私たち自身、自分自身のことです。私たちが献げる「霊のいけにえ」は、前に述べた3箇所の聖句からいえば、次のようにあります。
 - ・公正を行うこと、
 - ・誠実を愛すること
 - ・へりくだり神様とともに歩むこと
 - ・賛美し、祈ること
 - ・種々の善い行いをする
 - ・他の人を助けること
 - ・自分自身を神様に献げて生きること。
- ・私たちは「生ける石」です。1つ1つの石は大したことはなくても、多くの石が組み合わされると、見事な建物が出来上がります。同じように、私たちはそれぞれ小さな存在ですが、神の民として組み合わされるとき、すばらしい「霊の家」が出来上がります。それが教会です。
 - ・私たちはみな神様に仕える「祭司」となります。そして良きわざ、信仰と賛美と祈り、私たち自身を献げるのです。

③ では、どうすれば、そうなれるのでしょうか。

- ・それは「生ける石」であるイエス様と、1つになっていくことです。主イエス様と1つになっていかなければ、私たち自身が「生ける石」となることはできません。ですからペテロは言いました。「主のもとに来なさい」(2:4)とされています。主のもとへ行こうではありませんか！祭司は主のものと来る者です。主のもととは、どういうことでしょうか。

- ・ペテロは2章の初めで、大切なことを述べました。思い出してください。それは聖徒の成長です。赤ちゃんが成長するために必要な要素は、少なくとも4つあります。
 - (1) 呼吸すること (祈り)
 - (2) 清潔にすること (聖くされること)
 - (3) 温めること (交わり)
 - (4) 食物をとること (神のみことば)
- ・この4点は霊的成長にもあてはまる4要素でもあります。いかがでしょうか。1つ1つの「生ける石」である私たちは、主のみもとに来ることが肝要です。ですからペテロは、「**主のもとに来なさい**」(2:4) と述べました。

ま と め

主 題：「シオンに選ばれた石」

－生ける石－

- ・今日、私たちはシオンに選ばれた石としての幸いを学びました。イエス・キリスト様は、「尊い生ける石」、人には捨てられましたが、すみの「要石」であります。そして、この石に信頼する人の幸いは次の聖句です。

2:6 この方に信頼する者は決して失望させられることがない。」
- ・さらに幸いなことは、ペテロは神を信じる私たちも「生ける石」であると言いました。そして神の祭司として、私たちをお選び下さいました。なんという幸いではありませんか。
- ・神にもっとも近く、神のご臨在のもとで神の恵みをうけることができる存在(祭司)です。神は、その祭司によって「霊の家」(教会)を、築こうとされています。それは神がお建てくださる「神の宮」です。いかがでしょうか。私たちは誰よりも、祭司となれるような存在ではないことを知っています。選ばれたのです。ただ恵みであります。ですから、私たちは神を賛美し礼拝するものです。
- ・最後に次の聖句を読んでお祈りをささげましょう。

2:4 主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが神には選ばれた、尊い生ける石です。

2:5 あなたがた自身も生ける石として霊の家に築き上げられ、神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。

* God bless you !